記念物【天然記念物】 小浜御嶽（くもーおん）のリュウキュウチシャノキ

Ehretia dichotoma

指定年月日／1996(平成８)年 11 月 12 日
所　在　地／宮良 968－1

リュウキュウチシャノキはムラサキ科チシャノキ属の常緑高木で、北オーストラリア、マレーシア、フィリピン、蘭嶼などに分布している。八重山諸島では石垣島、西表島、波照間島、鳩間島、小浜島に分布しているが、その個体数は極めて少なく、この種の北限とされている。葉は卵状長楕円形で、先はとがり、基部は脱却し、全円縁で両面とも無毛である。春と秋の年２回、白い小さな可憐な花を咲かせ、花期が終わると球形で径３～４㎜の赤褐色の実をつける。

自生地としては、隆起珊瑚礁の海岸近くが多いが、宮鳥御嶽のリュウキュウチシャノキ（県指定天然記念物）のように町中に自然林の形で自生している珍しい例もある。小浜御嶽は宮良湾の海岸近くにあるので、自生地としては多くの例と同じといえる。

フィリピン以北では台湾にはなく、蘭嶼と八重山諸島で自生しているが、その不思議な分布理由はまだよくわかっていない。小浜御嶽のリュウキュウチシャノキは株から４本の幹が分岐しており、中齢木で将来繁殖できる可能性が充分あるので、保護育成していくべき貴重な樹木である。

記念物【天然記念物】 大（だい）マンゲー・小（しょう）マンゲー、中（ちゅう）マンゲー

指定年月日／1972（昭和 47）年５月　８日（大・小マンゲー）、1998（平成 10）年８月 12 日（中マンゲー）
所　在　地／桃里 165－1（大・小マンゲー）、桃里 165－883（中マンゲー）

マンゲー山は、大マンゲー（標高約 103m）、小マンゲー（同 60m）、中マンゲー（同 90m）からなり、高温多湿の亜熱帯の環境下で石灰岩が風化侵食を受けて形成された岩山で、円錐カルストと呼ばれる。

これらの岩山は、古第３紀前期石灰岩（宮良層群）からなり、今から 5500～6500 万年前に石灰質の殻を持つ生物や石灰分が海底に沈積して出来た地層が、隆起により持ち上げられてできたものである。

マンゲー山及び一帯の地層からは、地層の年代を示す化石（示準化石）としてペラティスパイラやアステロサイクリアなどの有孔虫の化石が発見されている。

石垣島の成り立ちを始め、琉球列島の地質構造や古生物を知るうえでもマンゲー山は重要である。